

バスケットボール競技におけるリバウンドとフリースローの勝利に対する影響

The effect of rebounds and free throws for basketball to win

1K03B019-2 市川藤乃

指導教員 主査 土屋 純 先生 副査 倉石 平 先生

《緒言》

私はバスケットボールを始めて12年になる。又、今後も生涯を通してバスケットボールをプレイしたいと考えている。よって、勝利するための要因は何かを考えるようになった。

バスケットボールの勝敗を左右する要因には様々なことが考えられるが、多くの文献ではリバウンドの重要性が指摘されている。本研究では、リバウンドを奪取することが、ゲームに勝つうえでどれだけ重要なかを、実際のゲームの分析をすることによって、明確にすることを目的とした。

《方法》

2003～2005年5月に開催された第37～39回関東女子学生バスケットボール選手権大会と同年9月に開催された第53～55回関東女子学生バスケットボールリーグ戦の全ゲーム(過去3年間分)を分析対象とする。ゲーム数は関東女子学生バスケットボール選手権大会、参加チーム32チーム、2回戦からの計14ゲーム×3年間分=42試合と関東女子学生バスケットボールリーグ戦(1部のみとする)、参加チーム8チームの計56ゲーム×3年間分=167ゲーム(1ゲーム分、没収試合のため対象に入れない)の合計251ゲームの結果を参考に分析していきたい。

関東女子学生バスケットボール連盟が記入したボックス・スコアを利用し、オフェンス・リバウンド数とディフェンス・リバウンド数を集計し、フリースローの試投数とフリースロー成功数を調べ、勝っているチームと負けているチームのリバウンド数とフリースロー数を比較し、傾向を読み取る。

《結果》

試合結果を集計した結果、リバウンド獲得本数と勝利には密接な関係があることが判明した。関東女子学生バスケットボール選手権大会では、42ゲームの内31ゲーム(73.8%)でリバウンド本数が対戦相手を上回り勝利している。関東女子学生バスケットボールリーグ戦では、167ゲームの内114ゲーム(68.2%)でリバウンド本数が対戦相手を上回り勝利している。フリースローについては、42ゲーム中23ゲーム(54.8%)、フリースロー成功確率が対戦

相手を上回り勝利している。フリースロー成功確率が対戦相手を下回ったが、勝利したゲームは19ゲーム(45.2%)であった。フリースロー成功確率が即座に勝利に反映されることについては、明確な結果は得られなかった。

《考察》

バスケットボールはいかに相手よりも多く点を取るかを競う競技であり、リバウンドを保持することはすなわち、オフェンス回数を得ることである。つまり、より多くリバウンドを得ることはより多くシュートチャンスを得ることとなり、したがって必然的にシュート本数が増え、シュート確率が相手と同程度であれば、勝利する可能性が高くなると言える。

フリースローはルール上、シュート時もしくはシュート体勢においてファウルを得た場合に与えられる。上記のリバウンドとは異なり、相手のディフェンスの条件も加味される故に、フリースロー試投本数を得ることは容易ではない。しかし、フリースローをより多く得ようと戦術戦略を組み立てることは可能であると考えられる。

フリースローの成功確率と勝利との相関関係は明確ではないが、拮抗したゲーム場面や膠着状況を打破するためには有効であると思われる。また、よりフリースローを得ようとする戦術には、制限区域内でのプレイに重点を置く傾向がある。それ故に、試投するシュートもゴールに近い比較的シュート確率の高いものであり、結果としてより多く得点を得ることができる。

《結論》

リバウンドはバスケットボールにおいて、勝利を左右する重要な要素であり、またゴール下での闘ぎ合いはバスケットボールの見せ場でもある。

フリースローは相手に妨害されずにシュートを放てる状況であり、また緊迫したゲーム状況においてはプレイヤーは過度の緊張状態を強いられる。したがって、日々の練習において、このような切迫感を体験させることは、僅差のゲームに勝利するために必要である。

以上のことから、リバウンドおよびフリースローは、その役割こそ異なるが勝利には必要不可欠であると考えられる。